

なまいてたれかつくりそめけんめでたくこそつけられ侍れ、

〔年中恒例記〕正月十一日 薯蕷 莖立 例年水主備後守進上之

二月廿四日 莖立久我殿日不定、

〔新撰字鏡〕菘 息隆反、菜名、太加奈。

〔本草和名〕菘 十八 菘 仁謂音嵩、蘇敬曰、不生北土、 牛肚菘、葉繁菘蕷薄白菘、似蔓菁、已上二
一名百葉、已上四名和名多加奈、

〔倭名類聚抄十七〕辛芥 方言云、趙魏之間謂蕷菁爲大芥小者謂之辛芥、音芥、和名多加奈。

〔箋注倭名類聚抄九〕原書卷三、作蕷菁、趙魏之郊、謂之大芥、其小者謂之辛芥、本草和名引七卷食經、載大芥辛芥、在蔓菁條、別不載和名而菘條云和名太加奈、新撰字鏡菘同訓、源君不從之也、本草芥陶注云似菘而有毛味辣好作菹亦生食、蘇注云葉大麤者葉堪食、葉小子細者葉不堪食、其子但堪爲壅爾、按蘇所云葉大者方言所言大芥葉味辛子少辛味今俗呼大葉芥、九州俗呼多加奈、讚岐俗呼止戈奈亦多加奈之轉耳、其云葉小者方言之辛芥、本草圖經之青芥、卽陶氏所說者今俗常用加良之也、而加良之下條舉食經辛菜爲之此宜標目作大芥、注五字在謂蕷菁爲大芥之下、又按方言以大芥爲蕷菁者以類統言之耳、非若後人一々分別也、

〔易林本節用集太木〕菘 菜

〔多識編三〕菘 古保禰又云多賀那、今案字岐那。

〔和爾雅〕菜蔬 菘白菜

〔物類稱呼三〕菘 生植 菘 同 な 京にてみづな又はたけなといふを近江にてうきな又ひやうすなと云、鄙にて京。菜といふ江戸にても水菜といふ有、京都の水菜よりは葉黒ずみて厚く廣し、京の水菜には、京大坂にもなし、風味よく、あかも一年の内絶ることなし、まことに名産也、又關西にていふ間引菜と云を、江戸にてつまみなどといふ、